

# レコード選択

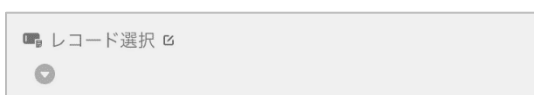
他のデータポケットのレコードを選択します。

## 基本情報

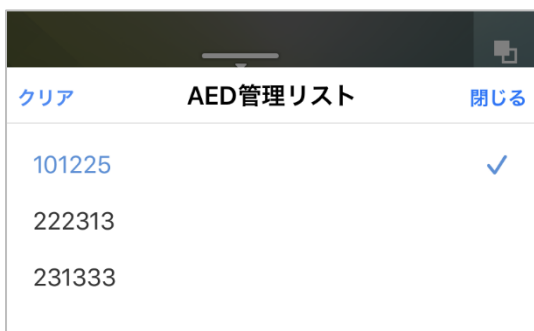
カテゴリー	レコード選択
利用できるプラン	Standard, Premium, Enterprise

## アプリ

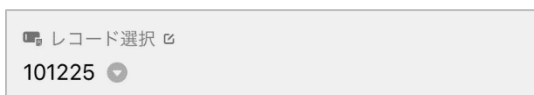
### 初期画面



### 選択リスト画面



### 表示画面



# Platio Studio

## フィールドの追加

レコード選択フィールドを追加すると、フィールドの追加画面が表示されます。  
ここで、どのデータポケットからフィールドを選択するかを設定します。

フィールドの追加については、[ミニガイド「レコード選択フィールド」](#)を参照してください。

【ミニガイド URL】

[https://plat.io/ja/wp-content/themes/platio/pdf/support/guide/platio\\_mguide\\_vol02.pdf](https://plat.io/ja/wp-content/themes/platio/pdf/support/guide/platio_mguide_vol02.pdf)

※ 追加できるフィールドは以下です。(追加画面に表示されるフィールド)

- テキスト
- 電話番号
- メールアドレス
- URL
- 数値
- テキスト選択
- 数値選択
- ユーザー
- バーコード
- QR コード
- テキスト生成
- 数値計算
- 集計
- 最新テキスト
- ID 生成

## 基本プロパティ

(※)のプロパティについて詳しくはミニガイド「フィールドプロパティ概要」を参照してください。

【ミニガイド「フィールドプロパティ概要」 URL】

[https://plat.io/ja/wp-content/themes/platio/pdf/support/guide/platio\\_mguide\\_vol01.pdf](https://plat.io/ja/wp-content/themes/platio/pdf/support/guide/platio_mguide_vol01.pdf)

検索可能 (※)	データポケットの一覧シーンで、検索アイコンをタップするときに検索対象にするかどうかを指定します。
ソート可能 (※)	データポケットの一覧シーンで、ソートアイコンをタップしたときにソートするかどうかを指定します。
値の重複を許さない (※)	データポケットの入力・編集シーンで入力するときに、同じデータポケット内で既に入力された値のとの重複を許すかどうかを指定します。(副データポケットを含む)
必須 (※)	データポケットの入力シーンで入力するときに、入力を必須にするかどうかを指定します。

## 高度なプロパティ

「高度なプロパティを表示」をクリックしたときに表示されます。表示した後、隠すには「高度なプロパティを隠す」をクリックします。

(※)のプロパティについて詳しくはミニガイド「フィールドプロパティ概要」を参照してください。

【ミニガイド「フィールドプロパティ概要」URL】

[https://plat.io/ja/wp-content/themes/platio/pdf/support/guide/platio\\_mguide\\_vol01.pdf](https://plat.io/ja/wp-content/themes/platio/pdf/support/guide/platio_mguide_vol01.pdf)

初期値 (※)	<p>データポケットの入力シーンで入力するときに初期値が入力されているようにする場合に、初期値を設定します。</p> <p>「レコード検索」を指定したときは以下が表示されます。 ※ これ以外の項目はミニガイドを参照してください。</p> <p>検索条件： 検索条件に合致するレコードを初期値として使用します。式テンプレートが使用できます。式テンプレートについては、開発者ガイドの <a href="#">Platio 式テンプレート</a> を参照してください。</p>
バーコードを読み取る	<p>データポケットの入力・編集シーンで、選択リストバーコードを読み取ることができるようにするかどうか指定します。</p> <p>オンにすると、データポケットでバーコードリーダーのアイコンが表示されて、タップするとリーダーが起動されます。</p> <p>オン：読み取る オフ：読み取りしない（初期値）</p>
タイプ	<p>「バーコードを読み取る」をオンにすると表示されます。</p> <p>読み取るバーコードの種類を指定します。</p> <p>「一般」以外を選択すると読み取りが速くなります。</p> <p>QR コード／一般（初期値）／Code 39／Code 39 mod 43／Code 93／Code 128／EAN-8／JAN-8／EAN-13 (UPC-A)／JAN-13／Interleaved 2 of 5／ITF14／UPC-E／NW-7(Codabar)／Aztec／DataMatrix／PDF417</p>
手動でスキャン	<p>「バーコードを読み取る」をオンにすると表示されます。</p> <p>データポケットの入力・編集シーンで、読み取りカメラを起動した時に自動にするか手動にするかを指定します。</p> <p>自動・手動はカメラ画面で切り替えることができます。</p> <p>オン：手動 オフ：自動（初期値）</p>
カメラ	<p>「バーコードを読み取る」をオンにすると表示されます。</p> <p>データポケットの入力・編集シーンで、起動するカメラを指定します。</p> <p>前面：端末の前面のカメラを起動 背面：端末の背面のカメラを起動（初期値）</p>

(続く)

(続き)

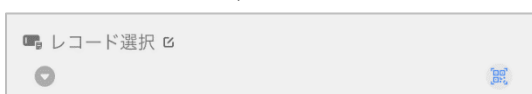
選択時に全ての検索可能フィールドを検索する	データポケットの入力・編集シーンで、対象のレコードを選択する画面下部の検索時に、データポケットの全ての検索可能フィールドを検索するかどうか指定します。 ※ オンにして検索する場合、レコード件数が多いとサーバー負荷が高くなる場合があります。 オン：検索する オフ：検索しない（初期値）
説明 (※)	データポケットの入力・編集シーンで、フィールド名の下に表示する説明を記述します。
絞り込み	データポケットの入力・編集シーンで、選択元のフィールドの値を絞り込みして表示する方法を選択します。 親レコード：同じデータポケット内のテキスト選択フィールドまたはレコード選択フィールドを使って、選択された値によって絞り込み表示します。詳しくは後述の「親レコード」を参照してください。 レコード検索：検索条件に合致するレコードを絞り込み表示します。 「レコード検索」を指定したときは以下が表示されます。 検索条件： 検索条件に合致するレコードを初期値として使用します。式テンプレートが使用できます。式テンプレートについては、開発者ガイドの <a href="#">Platio 式テンプレート</a> を参照してください。
色 (※)	データポケットのレコード入力・表示・編集画面と一覧画面で、フィールドの表示文字の色を指定します。
背景色 (※)	データポケットのレコード入力・表示・編集画面と一覧画面で、フィールドの背景色を指定します。
条件付き表示 (※)	データポケットの入力・編集シーンで、フィールドを表示する条件を指定します。

## プロパティ例

バーコードを読み取る：オン

### 【入力画面】

アイコンをタップするとバーコードリーダーが起動されます。



## 親フィールド

テキスト選択フィールドまたはレコード選択フィールドを使って、選択された値によって選択するリストを絞り込むことができます。

例えば、大項目 A に小項目 A1,A2、大項目 B に小項目 B1,B2 のように入れ子関係のあるリストがあります。

例：

親リスト

親 A

親 B

親 C

入れ子リスト

親 A | 子 A1

親 A | 子 A2

親 B | 子 B1

親 B | 子 B2

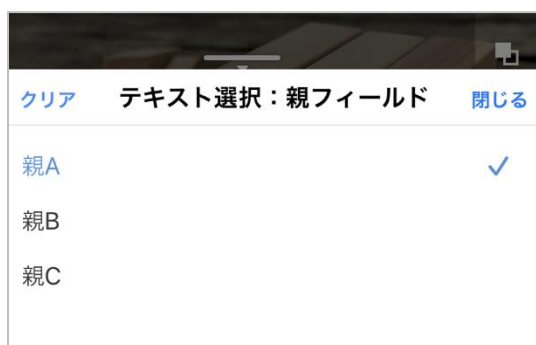
親 C | 子 C1

親 C | 子 C2

Platio アプリで操作するとき、登録用データポケットで先に親フィールドで値を選択し、次に子フィールドでは親フィールドで選択した値によって絞り込まれたリストから値を選択して登録します。

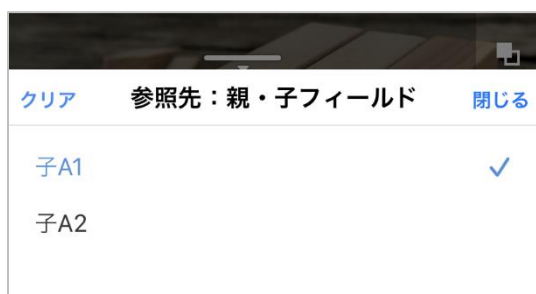
※ 親フィールドを選択しない場合、子フィールドの選択リストの項目は表示されません。

### ① 親フィールド（テキスト選択）で値を選択



クリア	テキスト選択：親フィールド	閉じる
	親A	✓
	親B	
	親C	

### ② 子フィールド（レコード選択）を表示して、親フィールドの値で絞り込まれたリストから値を選択



クリア	参照先：親・子フィールド	閉じる
	子A1	✓
	子A2	

### ③ 値を選択したレコードを作成



例のようなデータポケットを作成するには、Platio Studio で、2つのデータポケットを作成します。1つは入れ子リストのように親、子それぞれの情報をもつデータポケット（参照先）、もう1つは参照先と比較する親のテキスト選択フィールドと子を選択するレコード選択フィールドをもつデータポケット（登録用）です。

Platio アプリでは、登録用のデータポケットで、テキスト選択リストで大項目 A（親）を選択すると、レコード選択リストに親リスト A に関連付けた A1,A2 のみを表示することができます。

※ 親リストにできるのは「テキスト選択」フィールドのみです。

例えば、参照先のデータポケットに親のテキストフィールド、子のテキストフィールドを作成して、データビューアまたは Platio アプリでそれぞれに値を設定します。

例：

親テキストフィールド	子テキストフィールド
親 A	子 A1
親 A	子 A2
親 B	子 B1
親 B	子 B2
親 C	子 C1
親 C	子 C2

次に、登録用のデータポケットに、参照先と比較する親のテキスト選択フィールドを作成します。

### 【テキスト選択フィールドの値】



値の編集

親A	🔗 ✖ ☰
親B	🔗 ✖ ☰
親C	🔗 ✖ ☰

魚座

追加

黄道十二星座の1つ。

インポート      キャンセル      完了

入れ子にする値を選択できるレコード選択フィールドを追加し、参照先データポケットの子のフィールドを選択します。

### 【レコード選択フィールドの追加】



フィールドの追加

どのミニアプリからレコードを選択しますか?

集計フィールド

参照先: 親・子フィールド

どのフィールドの値で選択しますか?

参照先の親フィールド

参照先の子フィールド

戻る      キャンセル      追加

作成したレコード選択フィールドの高度なプロパティは、「親フィールド」で「フィールド」を選択します。選択すると表示された「フィールド」では、同じデータポケットで親フィールドとして作成したテキスト選択フィールドを指定します。比較フィールドでは、レコード選択の参照先データポケットの候補フィールドが表示されます。ここで比較する親フィールドを指定します。

#### 【レコード選択フィールドの高度なプロパティ】

フィールドの編集

値の重複を許さない ⓘ

必須 \*

初期値

バーコードを読み取る

説明

絞り込み

フィールド

親となるフィールドを選択します。ここで選択したフィールドでユーザーが選択した値に応じて、このフィールドでユーザーが選択できるレコードが絞り込まれます。

比較フィールド 参照先: 親・子フィールド

このレコード選択フィールドの候補のうち、ここで選択したフィールドで選択した値と等しいレコードのみが選択できます。

参照先の親フィールド

参照先の子フィールド

以上で設定が完了します。